



みんなかがやく！（江東区教育委員会テーマ）

ブリリアンス Next Stage 第12号

～ありのままに今を輝く～

江東区立南砂中学校だより



0 主任教諭（つばさ教室）

10月に新しい命が誕生しました おめでとうございます

校 長 近藤 啓太

「ちょっと長い話」の向こう側 ― 開校50周年記念式典を迎えるにあたって

秋も深まり、朝晩は心地よい風が吹く季節となりました。さて、今月末は24日（土）の文化祭に引き続き、31日（土）には本校の大きな節目となる「開校50周年記念式典」が執り行われます。

生徒にとっては「周年記念式典」と言うと、「パイプ椅子にじっと座って、校長たちの長い話を聞かされるのか」「大人の行事に付き合わされるのか」と思う人がいるかもしれません。

しかし、先月の道徳地区公開講座で、私の心配は吹き飛びました。地域・保護者と一緒に「なぜ50周年を祝うのか」「これからの南中をどうしていくか」を真剣に語り合ったからです。ワークシートには、「先輩や保護者の方から自分には思いつかなかった考えを聞いた」「自分の考えに共感してもらえて嬉しかった」「外から見た南砂中学校のイメージを知れてよかった」といった素直な気付きの言葉があふれていました。対話を通して学校の魅力を再発見し、「南中は地域や卒業生の方々の大切な拠り所なんだ」と気付き、そしてこの節目を「自分事」として受け止めようとする姿勢に、胸が熱くなりました。またワークシートには、生徒が愛し、残したいと感じている「南中のレガシー（良さ）」がたくさん書き込まれていました。

学年を超えたアットホームな雰囲気やあいさつ、困った時に助け合う心、多様性を認め合う温かな空気。そして「南中ソーラン」や「あじみこし」、「南太」、「キャットレッヂ」といった独自の伝統、美味しい給食、行事で見せる熱気や笑顔―。当たり前の日常生活の一つひとつが、みんなの誇りなのだと実感しました。

さらに頼もしかったのは、これからの50年に向けた「新たに作りたい一歩」のアイデアです。

標準服やジャージ、校則の見直し、部活動のさらなる活性化、SDGsやデジタル化への挑戦、地域や他校との交流、そして「個性の尊重」や「夢を口にする力」―。自分たちの手で新しい学校文化を創ってこうとする、前向きなエネルギーが詰まっていました。今、私たちが過ごす校舎や校庭には、こうして積み重なってきた50年分の人々の「想い」があります。式典に向けては、地域の方々や歴代PTA、歴代校長先生方が何ヶ月も前から準備を重ねてくださっています。職員室でも、副校長をはじめ先生方が「生徒たちが誇りを持てる式典にしたい」と、企画や記念誌の編集、会場準備に走り回っています。

当日は、区長をはじめとする区の代表者、学校を支えてくださる地域の皆様がたくさんお見えになります。「自分たちはこんなにも多くの方々に温かく見守られているんだな」と実感できるはずです。

50周年という節目の日。それは大人のためのものではなく、これまでの歴史と人々に「感謝」を伝え、私たちが「次の50年への新たな一歩」を踏み出す日です。未来をつくる主役は、皆さん一人ひとりです。

未来へつなぐ平和の祈り ～被爆樹木二世「クスノキ」の植樹に寄せて～



猛暑を乗り越え、
本校に届いた
「被爆2世クスノキ」
の苗木

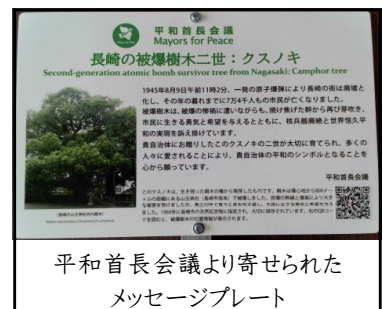
昨年の戦後80年を経て、平和への祈りを次世代へとつなぐ大切さを改めて感じております。被爆2世であることを公言する福山雅治さんの楽曲『クスノキ』のモデルとなった山王神社のクスノキは、爆心地から800メートルで被爆しながらも再び力強く芽吹き、人々に生きる勇気と希望を与えた木です。

今回、平和首長会議「被爆樹木二世を育てる運動」に江東区を通じて苗木の授与を申請していました。猛暑を乗り越え、この度、本校に小さな苗木が届きました。

この苗木は、原爆の被害を生き抜いた親木の種から芽吹いた新たな命です。

本校の敷地に植樹し、ともに大切に見守ってまいります。これから50年後、そしてその先の未来においても、私たちが戦争に巻き込まれることなく平和な社会で生きられること、そしてあらゆる対立や争いを「人類の英知」によって平和裏に乗り越えられる時代がくることを心から願っております。

「平和のシンボル」として根を張り、ともに育っていくクスノキの姿を、ご来校の際にはご覧ください。



平和首長会議より寄せられた
メッセージプレート

【江東区民まつり 砂町地区大会 10月4日(日)】

秋空のもと開催された「江東区民まつり 砂町地区大会」に、本校の和太鼓部と吹奏楽部が出演し、日頃の練習の成果を披露しました。

和太鼓部は、お腹に響く力強いバチさばきと息の合った演奏で会場全体を包み込みました。続いて登場した吹奏楽部は、親しみやすい楽曲(マツケンサンバ2)を豊かなハーモニーと共にまつりのステージに大きな華を添えました。地域の方々からのあたたかい拍手やご声援は、生徒たちにとって大きな励みとなり、地域の一員として活動する喜びを改めて実感する素晴らしい機会となりました。



迫力ある打調で会場を盛り上げた和太鼓部の演奏



笑顔と綺麗なハーモニーを届けた吹奏楽部のステージ

【生徒会選挙 9月29日(火)】

生徒会役員選挙が行われました。新役員生徒は1年間、新委員長は半年間、学校のリーダーとして活躍してくれることでしょう。また、準備から当日のスムーズな運営、開票後の片づけまで責任を持ってやり遂げてくれた選挙管理委員の生徒たちにも、心から感謝します。投票にあたっては、実際の選挙さながらの緊張感ある環境が整えられ、全校生徒一人ひとりが自分の一票に責任と自覚を持って投票に臨む姿が見られました。頼もしい仲間たちの今後の活動を、学校全体で温かく応援していきましょう。

《2学年だよりから抜粋》



【江東区立中学校連合陸上競技大会 10月7日(水)】

本校からは10名が立候補し、夏休みの早朝や放課後の時間を使って長期にわたり練習を積み重ね、本番に臨みました。当日は気温が高く厳しいコンディションの中でしたが、各自が最後まで諦めずに力を尽くしました。

競技面では、**2年生のYさんがハードルで 7位入賞**を果たしました。

順位にかかわらず自己ベスト更新を笑顔で喜ぶ生徒もいれば、悔しそうに電光掲示板を振り返る生徒もあり、それぞれの想いが交錯する一日でした。

しかし、長期間練習を継続し、限界に挑み続けたその挑戦過程にこそ、大きな意味があります。学校の代表として力を尽くした10名の選手、グッジョブ！



【進路講演会 10月8日(水)】

山田進太郎D&I財団「STEM Week 2026」主催で、大日本印刷株式会社(DNP)の若手社員Yさん(事業開発本部)による講演会を行いました。毎年「職業講話」を行っていますが、今回は「理系」「女子」「進路選択」がキーワードです。特に3年生が首を伸ばし真剣に聴いている姿が印象的でした。この件については、次号でも触れます。

《以下は3学年だよりから抜粋》

仕事、研究のやりがいや自分の「好き」を突き詰めていくことの大切さという、これから進路を決めていくうえで必要な考え方を学ぶことができました。また、改めて、自分のキャリアプランについて考えるきっかけにもなりました。近年、AIの急激な発展に伴い、人々の働き方や求められる働き手の資質が変化しています。将来の自分のなりたい姿を想像し、実現できるよう取り組みましょう。



教材費の引き落とし

11月5日(木)が今年度最後の引き落とし日です。事前の口座残高の確認をお願いします。